

■指導行政のポイント

授業力を鍛える“教師道場”

菱村 幸彦

東京都教育委員会は、若手教員の授業力の向上をめざし、来年4月から「東京教師道場」をスタートさせるという（11月10日付『読売新聞』）。

門人同士の徹底した相互研鑽

教育の質の向上は、結局、教師の授業力にかかっている。このため、あちこちで教師の授業力の向上をめざした新しい研修の場が検討されている。なかでも東京教師道場は、規模においても内容においても本格的なもので、新しい教員研修のあり方として注目される。そこで、東京教師道場の仕組みや内容について、以下にQ&Aの形で紹介してみよう。

Q 教師道場に入門するのは、どんな教師か。

A 教師道場に入門するのは、400名の「部員」と100人の「助言者」である。部員は、教職経験5年から10年の教員で、授業力向上のためのリーダーとして育成したい教員や教科等において高い専門性を身につけようとする教員の中から、都教委が決定する。助言者は、教科指導のベテラン教師で、教師道場を修了した教員（初年度はいない）、若手教員の育成に実績のある教員、教科指導において専門性が高い教員などから、都教委が選ぶ。

また、教師道場でこれらの部員と助言者の指導にあたるため、「指導者」として指導主事と学習指導専門員（優れた退職校長から任命）が配置される。

Q 教師道場のメンバーは500名に及ぶが、どのような組織で運営されるのか。

A 教師道場のメンバーは、「組」と「班」に編成される。まず、助言者と部員を教科ごとにグルーピングして「組」を編成する。

具体的には、国語、社会、算数・数学、理科、体育、芸術、英語、家庭、情報、工業、商業、特別活動、総合学習などの各組が編成される。次いで、その各組内で学校種ごとにグルーピングして「班」を編成する。一つの班は、助言者2名と部員8人で構成される（全体で約50班）。教師道場では、班を中心に徹底した相互研鑽により授業の技を磨くわけだ。

成される（全体で約50班）。教師道場では、班を中心に徹底した相互研鑽により授業の技を磨くわけだ。

Q 教師道場では、どのようなプログラムで研修を行うのか。

A 教師道場の研修期間は2年で、2年を3期に分けて研修を行う。第1期（1年目の4月～8月）は、助言者の模範授業をみて自分の授業の問題点を認識したり、班や組で部員同士の授業を公開して改善点を討議したりして、自分の授業力を把握し、今後どう改善するかを検討する。

第2期（9月～2年目6月）は、部員同士の授業公開で授業改善の進捗状況を確認したり、異校種間の授業研究に基づく相互研鑽をしたり、さらには同一課題で教材開発や指導技術を競ったりして、授業力を飛躍的に向上させる。

第3期（2年目7月～3年目3月）は、授業を公開して相互に指導助言したり、その指導助言を相互に評価したり、開発した学習指導案を公開したりして、指導的立場の教員としての能力を確立する。

Q そうした授業公開や研究討議は、年にどれくらい行うのか。

A 研修回数は、年間12回程度を予定している。すなわち、全体協議会1回、模範授業1回、班における授業研究7回、組における授業研究1回、夏季休業中の集中研修2日程度である。2年目の研修も、おおむねこれに準じている。

Q 教師道場を修了すると、どうなるのか。

A 部員修了者は、「授業力リーダー」候補者名簿に登載され、教師道場の助言者、自校や地域での授業研究の講師、教科等研究会の中心的役割、指導資料集の作成などにあたる。また、助言者修了者は、「授業力リーダー」として認定され、さらに進めば「授業力スペシャリスト」として認定される。

（ひしむら・ゆきひこ＝（財）学習ソフトウェア情報研究センター理事長）

●好評発売中！● 小川正人（中教審委員）【編】

義務教育改革

A5判 220頁
定価 2310円

★重要なお知らせ★

●…FAX通信は平成18年1月配信分からすべて「メール配信」に移行します。継続購読ご希望の場合は、小社ホームページから、改めてご登録くださるようお願いいたします。